

テーマ	小学校下学年における比例的推論の基礎を形成する授業に向けた学習軌道の探究
発表者	日野圭子（宇都宮大学）、加藤久恵（兵庫教育大学）、市川啓（宮城教育大学）、 工藤優（仙台市立木町通小学校）、高橋丈夫（成城学園初等学校）、 成澤結香里（山形大学附属小学校）、上野友美（下野市立祇園小学校）、 田島達也（熊谷市立星宮小学校）、秋澤克樹（宇都宮大学共同教育学部附属小学校）、 寺井あい（兵庫教育大学大学院生）、山本紀代（和歌山信愛大学）、 山下裕己（和歌山市立大新小学校）
指定討論者	布川和彦（上越教育大学）
趣旨及び概要	<p>数学教育では、比例的推論の発達モデルやそれに基づく指導の在り方が研究されてきているが、教師の日々の授業改善を視点としたボトムアップの研究は十分ではない。特に、下学年の理論的・実践的研究は少ない。本課題研究のリサーチクエスションは、「下学年における比例的推論の基礎を形成する授業をつくる上で、児童の具体的な推論の事例を踏まえると、児童の学習軌道がどのように設定できるか」である。</p> <p>昨年度は、2つのタイプの比の使用に関する質の高まりを捉える幾つかの段階を学習軌道として提案するとともに、比例的推論の実態調査、第2学年「かけ算」の授業実践を報告した。</p> <p>本年度は、昨年度の課題を踏まえ、本研究での試みや先行研究の分析を基に、提案した学習軌道の改善への示唆を得る。また、他の問題場面を用いたインタビュー調査や授業実践を通して、小学校第1～3学年の児童の比例的推論の進展の多様性を捉えるとともに、進展を促す要因を探る。</p>